



木の实谷

3月

向上心に燃え 心身ともにたくましく 実践力のある生徒

3月13日発行

卒業によせて～卒業式 学校長式辞より～

雪解けが進み、少しずつ春に向かっていくことを実感している今日、吉川区総合事務所長 様を始め、ご来賓の皆様、そして多くの保護者・ご家族の皆様からのご臨席を賜り、第四十七回卒業式が挙行できますこと、心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

二十名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは本日をもって、九年間の義務教育課程を終えることとなります。皆さんが健康にこの日を迎えられたことを本当にうれしく思います。

令和五年四月、皆さんの中学校生活は始まりました。ようやく新型コロナウイルス感染症による世界的な混乱が終了しつつある中でスタートでした。学校行事や部活動など、あらゆる面で制約が解除され、本来の自由な学校生活が戻ってきました。

二年生の終わりの修学旅行。奈良公園でシカに追いかけられ、京都の伝統に目を見張り、大都会、大阪の街を満喫する旅でした。とても見分が広まったことと思います。様々の出会いを経て、吉川に帰ってきたみなさんは、とても成長したように感じました。

三年生では、体育祭、音楽祭、OKAMI遠足と吉川中三大行事を、最高学年として盛り上げてくれました。北井・鳥越両団長の掛け声も勇ましく、競技と応援に燃えました。音楽祭では、クラス合唱、全校合唱ともに素敵な歌声を披露しました。そして、OKAMI遠足での頂上付近のクラス写真では達成感を味わった、すがすがしい顔が映っていました。

そればかりではありません。毎朝玄関でさわやかな挨拶を返してくれる人、話しかけるといつも笑顔で答えてくれる人、リーダーとして後輩たちを導いてくれた人、いつも授業に集中していた人、一生懸命に掃除ができる人、困っている人に優しく声掛けできる人、皆さんの素晴らしさや成長をたくさん見ることができました。時には失敗したこともあったでしょう。みなさんは、それを乗り越えて本日があるのです。ぜひ、中学校三年間の頑張りを大きな自信にしてほしいと思います。そして、四月から新しいスタートを切ることになります。そんな皆さんに私から次の言葉を送りたいと思います。

「信頼と自信は、誰も見ていないところでどう行動するかに決まる」

人間は集団で生活する生き物です。他の人の前で、相手の立場や考えを尊重し、思いやりをもって行動することは絶対に必要なことです。では、だれも見ていないところでの行動はどうでしょうか。だれも見ていないところでゴミを捨てる人、だれも見ていないところでゴミを拾う人、どちらの行動が正しいか論じるまでもありません。こういう正しい行動は、いつかどこかでだれかに見られます。そのとき、人は「あっ、この人は表裏なく行動する人だ」と評価され信頼を得ます。

しかし、だれも見ていないところで百回も千回も正しい行動をしても、本当にだれもみていなければ意味がないと考える人もいるかもしれません。ところがどんな行動でも必ず一人は見ています。それは自分です。自分の行動は必ず自分が見ているのです。これを百回も千回も、いや人生の習慣として一生続ければ、「私は常に正しい行いをしてきた」と大きな自信となると思います。生きていくうえで、「信頼」と「自信」この二つの大きな武器をもてば、豊かな人生になること間違いなしです。

そして、一、二年生のみなさんも立派に成長しました。卒業生のみなさんはどうか安心して次のステップに向けて羽ばたいてください。ただ、時々には吉川中学校に顔を見せてくれると嬉しいです。

最後になりますが、今日までの十五年間、お子さんを信じ、一生懸命育ててくださった保護者の皆さん。お子さんのご卒業、おめでとうございます。順調なことばかりではなかったと推察いたしますが、お子さんは立派に成長して、義務教育を終えることができました。とりわけ中学校生活三年間をお預かりした私たち教職員一同は、今までの御理解、御支援に心より感謝申し上げます。時には、私たちの至らない点もあったと思いますが、毎日一生懸命お子さんの成長のためにも歩んでまいりました。本当にありがとうございました。

ここに参列していただいた皆様と、お子さんの成長に関わってきたご家族、地域の皆様に感謝申し上げ、はなむけの言葉とさせていただきます。

令和八年三月六日

上越市立吉川中学校 校長

卒業生代表による“巣立ちの言葉”

冷たい風の中にも暖かな日差しを感じる季節となりました。今日、私たち二十名は自らの手で夢をつかむため、この吉川中学校を卒業します。私の心の中には数え切れないぐらいのたくさんの思い出が昨日のこのことのようによみがえってきます。

3年前の春、一回りも大きい制服に身を包み、少し大人になれたような気がした入学式。希望と不安を胸にこの体育館に足を踏み入れました。生徒会活動、体育祭、音楽祭など初めてのことがたくさんありました。何もかもが初めてだった1年生の私たちを引っ張ってくれた先輩。思い返せばとても大きな存在でした。

二年生になり後輩が入って、私たちも「先輩」と呼ばれるようになりました。一学期の職場体験学習では仕事というものの厳しさ、そして周りの人のために頑張ることの大切さを学びました。また、部活動では三年生が引退し引っ張っていく立場になり、目標に向かって練習し、喜びと悔しさの両方を分かち合えたことは忘れられない大切な思い出です。

三年生が卒業し、はたして私たちが今までの先輩方のようにできるだろうかという不安もありましたが、そんな思いを払拭しようとみんな全力で生徒会活動や行事に取り組みました。

体育祭では、応援合戦の企画や、Tシャツ製作など、短い期間の中で当日に向けて準備することの難しさを感じました。時には意見をぶつけ合い、険悪な雰囲気になることもありました。しかし、各軍で話し合いを重ね、より仲間との絆が深まっていきました。当日は両軍とも優勝目指して熱く頑張りました。勝負の結果は出ましたが、私はそれ以上に、苦勞してきた仲間との過程がとても大切であったことを学びました。最後に全校生徒で一つの円になりその喜びを表現できたことが最高の思い出です。

音楽祭では、より良い合唱をするためにたくさん練習しました。吉川中学校おそらく初となる担任の先生が指揮者となり、一致団結して思い出に残る合唱を披露することができました。

地域の方々、大変お世話になりました。やっつれ祭りの準備活動では、当日まで話し合いを重ね、私たちの屋台の希望を全てかなえていただきました。おかげで当日は暑さも忘れ、楽しんで地元



貢献することができ、かつてない売上を出すことができました。また、「尾神遠足」では、熊が出ないように大変多くの地域の方々からパトロールをしていただきました。私たちが最高の景色を堪能し、無事全員完歩し、達成感を味わえたのも、みな様の支えがあったからだと感謝しています。大変ありがとうございました。これからは、私たちもこの地域の住民として様々な活動に関わりこの吉川地域を陰ながら支える立場になれるよう卒業生一同頑張っていきます。



在校生の皆さん、私たち三年生をいつも支えていただき、ありがとうございました。一年間の行事、日々の生徒会活動を無事終えることができたのもみなさんのおかげだと実感しています。来年度はさらに全校生徒数が少なくなります。新1年生を温かく迎え、人数が少ないからこそ学校生活をより充実させることができるはずです。この素晴らしい吉川中学校を今よりももっと素敵な学校にしていってください。

今まで私たちを厳しく、そして優しくご指導くださいました先生方、本当にお世話になりました。なかなか学習に気持ちが向かず、いろいろご迷惑をおかけしました。しかし先生方はいつでも粘り強く、声をかけてくださいました。今日までにかけていただいた数々の言葉は私たちの心の支えになりました。本当にありがとうございました。3学期に入り、卒業までのカウントダウンが始まり、仲間との別れが刻一刻と迫っていることに焦りを感じ始めました。

出会ってから短くて九年、長くて十二年。そばにいたことが当たり前だと思っていた二十名の仲間。私たちはこんなにも大切な宝物をいつの間にか見つけ、支えられていたからこそ、今日という日まで九年間、頑張ってきたのだと思います。たわいもないことで笑い、泣き、時にはけんかをし、ともに高め合ってきた仲間とも今日が最後だと思うととても淋しく思います。明日からはもう聞けない声、もう会えない友達、もう見えない景色、ですが、卒業しても離れるのは距離だけです。今日を境に自分の夢に向かって別々の道を歩き出しますが、私たちはこれからもずっと友達です。今まで本当にありがとう。そしてこれからもよろしく。

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん。いつもは照れくさくて言えないのですが、この場を借りて言いたいと思います。いつも困らせたり、心配をかけたりにしてごめんなさい。義務教育修了の今日まで育ててくれて本当にありがとうございました。これからもまだまだお世話になるとと思いますが、よろしくお願いします。

私たちはいつも誰かに支えられてきたのだということが今はよく分かります。三年間なんて長い人生のうちでほんの少ない時間かもしれないけど、そのときを一生懸命生きたことはとても大切なことです。吉川中での思い出はきっと一生忘れられないものとなるでしょう。

最後になりますが、保護者の皆様、先生方、地域の皆様、今まで本当にありがとうございました。私たちは必ず皆さんから受け取った「心」を忘れず、育み、つなぎ、それぞれ二十通りの「正解」を見つけるため、次の進路へと旅立ちます。どうか温かく見守ってください。本日ご臨席いただいた皆様のご健康とご多幸、そして、母校吉川中学校の益々のご発展をお祈りし、巣立ちの言葉と致します。



令和八年三月六日

第四十七回卒業生代表 TS

在校生代表による“巣立ちの言葉”

別れと出会いが重なる春の季節となりました。

吉川中学校を卒業される20名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

今、まさに先輩たちにとっては「別れ」のときですね。どんなことが思い出されるでしょうか。

私が思い出すのは、みなさんとの学校行事や部活動、日々の生活などです。みなさんはいつも私たちの前を歩き、背中であくさんのことを教えてくださいました。

体育祭では結果だけではなく、その過程におけるみなさんの姿が強く心に残っています。思うような結果にならなかったときでも、声を出すことで仲間と鼓舞しあっていましたね。最後まで気持ちを切らさずに次の競技へ向かう姿がありました。みなさんがやろうと決めてくれた全校で組んだ円陣。それに応える全校のみんな。とても素敵な光景でした。そんな仲間思いで、何事にも本気なみなさんを見て、全力で取り組むとは、こういうことなんだと感じました。

そして、みなさんのすこさは委員会活動の中でも感じることができました。みなさんは学校全体のことを考えて行動されていました。今年度の生徒会はたくさんのレクリエーションが企画されたので、私たちはとても楽しい時間を過ごすことができました。それだけではなく、準備や確認など、目立たないところでも責任をもって最後まで取り組む姿はとても印象に残っています。学校生活がスムーズに送れているのは、みなさんの支えがあったからだと思います。そして仲間思いな姿を見て、「こんな先輩になりたい」と何度も心を動かされました。

これからみなさんはそれぞれの新しい道に進みます。楽しいこともあると分かっていますが、一方で未知なことだらけで不安なこと、つらいことにも向かわなければいけなくなります。そんなときに、一人で抱え込まずに、この吉川中学校で仲間と過ごしたことを思い出してください。そして、それをぜひ生かしてください。「自分は一人ではない」ということを忘れないでいてください。なぜなら、今、みなさんの隣に一緒にやってきた仲間がいるではないですか。私たち在校生は、この吉川中学校からずっと応援しています。みなさんから受け取ったバトンをつないで、よりよい吉川中にしていけるように精一杯努力します。別れと出会いの季節、これからのみなさんには「出会い」が待っていますね。今まで本当にありがとうございました。

最後に、卒業生のみなさんの新しいステージでのご活躍を、在校生一同心よりお祈り申し上げ、送る言葉といたします。

令和八年三月六日

在校生代表 OK



4月の予定

4月 7日 (火)	新任式・始業式
8日 (水)	入学式
10日 (金)	生徒会入会式
14日 (火)	知能テスト (1年生)
16日 (木)	NRTテスト① (3教科)
17日 (金)	NRTテスト② (2教科)
23日 (木)	全国学力・学習状況調査 (3年)
27日 (月)	授業参観・学校説明会



3月6日、20名の卒業生が学び舎を後にしました。卒業生代表のTさんは、答辞の中で、感謝の言葉を述べながら、その度ごとに丁寧に頭を下げました。9年間を共にした仲間への飾らない言葉、これからの生活への決意、その言葉の一つ一つに心を打たれました。20名の卒業生のこれからの活躍をお祈りいたします。

今回は令和7年度最後の学校だよりとなります。今年度も吉川中学校の教育活動に、様々な面でご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございました。令和8年度もよろしく願いいたします。